

20世紀FOX映画がくトラ・トラ・トラ!に続いて放つ73年最大の感動巨篇!

# ポセイドン

パナビジョン/カラー作品

THE POSEIDON ADVENTURE

# アドベンチャー

これこそ映画の中の映画・UPI通信



GENE HACKMAN ERNEST BORGNINE RED BUTTONS CAROL LYNLEY RODDY McDOWALL STELLA STEVENS SHELLEY WINTERS JACK ALBERTSON PAMELA SUE MARTIN ARTHUR O'CONNELL ERIC SHEA LESLIE NIELSEN



ジーン・ハックマン/アーネスト・ボーグナイン/レッド・バトンス/キャロル・リンレー/ロディ・マクドウォール/ステラ・スティーブンス  
 シェリー・ウィンタース/ジャック・アルバートソン/パメラ・スー・マーチン/アーサー・オコンネル/エリック・シーア/レスリー・ニールセン  
 製作アーウィン・アレン/監督ロナルド・ニーム/原作ポール・ギャリコの小説「ポセイドン・アドベンチャー」より/音楽ジョン・ウィリアムズ

3月17日(土)より大ロードショー

ヒビヤ 有楽座 (591) 5351

■上映時間

平日	12:00	2:25	4:50	7:15	
日・祝	9:35	12:00	2:25	4:50	7:15

特別鑑賞券発売中!  
 ¥600 (一般¥800のところ)

# 史上最大の脱出！ 極限の世界に生れた人間愛の感動と迫力！



ボセイドン号転覆直後の船内の地獄図



涙なしには見られない愛と感動の話題シーン

● **シヨック！**  
12月31日、ニューヨーク港からギリシャに向う超豪華船ボセイドン号（81、000トン）は海底地震によってひきおこされた32メートルの大津波にのまれて転覆。折しも船内では1400名の乗客がニュー・イヤール・イブを船内の大食堂で過ごしていた。

● **スベクタクル！**  
船の転覆とともに怒濤は窓ガラスをぶちやぶって大食堂にただれこんだ。一瞬にして水にのまれた1000名の乗客たち。ある者は固定テーブルにしがみつき必死に助けを求める。山なす死体。虫の息で助けを求める幼い生命。眼を覆う地獄図！この特撮こそいま話題の焦点で、「トラ・トラ・トラ！」でアカデミー特殊効果賞のL・B・アボットがその技術の粋を見せたもの。

● **スリル！**  
34才のスコット牧師（フレッチャー・コネクシオン）でアカデミー主演男優賞に輝いたジーン・ハックマンの前作をしのぐ名演技は九死に一生をえた。彼のまわりには10名の生存者がいた。スコット牧師は海面に一番近い船のスクリューの部分から脱出をはかろうと、10名の陣頭指揮に立って大脱出をリードする。その息をのむスリル！船内の爆発事故におびえながら彼らの運命ははたしてどうなるか？

● **極限の世界に生れた人間愛！**  
ポップス歌手ノニー（キャロル・リンレー）は事故でドラマの弟を失った。彼女は弟の死体にしがみつき「わたしも死にたい！殺して！」と泣き叫ぶ。そんな彼女を励まし、どんなにつらくとも生きようとするとすのは、独身の雑貨商人ジェームス（サヨナラ）でオスカー受賞のレッド・バートンズ。極限の世界に生き残った行きずりの他人同志の間に、生きることへの執念が、人間愛となつて深い感動をもつて私たちの心をうつのだ！

● **サスペンス！**  
脱出は困難をきわめた。迷路のような船内を牧師は弱い女、子供を激励しつつリードして行った。50米下は水の地獄という垂直エア・シャフトを一人づつがよじのぼって行く。高所恐怖症からハシゴにしがみついた女。一歩あやまれば水地獄へ転落。しかもボイラー室からは爆発がいまにも起ころうとしている。その手に汗にぎるサスペンス！

● **涙！感動のドラマ！**  
エンジン・ルームへの脱出路を求めてスコット牧師は水中にもぐった。だが帰るべき牧師が帰って来ない。ベル・ローゼン夫人（アンネの日記）、「いつか見た青い空」で二度オスカー受賞）は135ポンドの肥満体だったが、むかし水泳選手だったことから、周囲がとめるのも聞かず水にダイビングし、水中で鉄の扉に体を奪われて身動きできないでいる牧師を救出した。エンジン・ルームにたどりついた夫人は心臓発作を起こし息をひきとった。死ぬまぎわに夫人はギリシャにいる孫に胸にかけているメダルを渡してと涙ながらに訴えた。老夫人は孫に会えぬのをただ一つの楽しみにした航海だった。

牧師の眼に涙がとめどなく流れた。この美しい犠牲が自分の命を助けたのだ。「神よ、あなたはなぜこの婦人の命を召されたのか！」。牧師の口から怒りをこめた声もれた。ベル夫人の夫ローゼン氏は、夫人の遺体を抱きしめし涙にくれた。やがてローゼンも、夫人の美しい犠牲がみんなを助けるためのものだったことを知った。最後まで生きぬくこと。それが夫人の遺志にむくいる道だと、みんなはふたたび困難な脱出に最後の力をふりしぼって挑戦するのだ。劇中、涙なしには見られない、もつとも感動的な名場面だ。

● **そして……**  
第二の犠牲は、突然の爆発音とともに刑事ロゴ（マーティ）でオスカー受賞のアート・ブッシュ（ボグナイン）の妻リンド（グラマー）女優ステラ・スチーブンス）を奪って行った。さらにスコット牧師をも最大のピンチに直面させるのだった……。さて、彼らは無事に救出されたのだろうか？……感動のヒューマン・ドラマは最後のクライマックスへ！

● **「ゴッドファーザー」をしのぐ大ヒット！**  
全米でクリスマスから公開された「ボセイドン」アドベンチャー」は50日間で3,095万ドル（約93億円）の興収をあげて昨年の「ゴッドファーザー」をしのぐ大ヒットになった。20世紀フォックスが「トラ・トラ・トラ！」以来の超大作として製作費1200万ドル（36億円）を投じたこの映画は、フォックス映画が過去に製作した超大作「史上最大の作戦」、「クレオパトラ」、「サウンド・オブ・ミュージック」、「トラ・トラ・トラ！」の歴史を継承した最新大作で、ファンを期待を裏切らない絶対の自信作である。

● **マスコミに激賞の嵐！**  
「イブニング・ポスト誌」セル・B・デミル監督（十戒）のスペクタクル精神とデイズニーのファミリー・ピクチャーの健全さをあわせ持つ、これこそアメリカ映画の伝統にそつともみごとくな傑作！

● **「テイラー・ニュースリアン・ガリノ」映画本来のスペクタクルの面白さをこの作品に求めて観客は帰ってきた。映画の素晴らしさを再認識させたこれは記念すべき傑作！**  
「ハリウッド・レポート」アラン・ハワード「船の転覆、津波の襲来場面は特撮陣が最高の技術を発揮した見事さで、アメリカ映画の底力を見せた凄さだ。」

● **「ニューヨーク・タイムス」A・H・ウェイラー「ハリウッドの大作だけが持つこの風格。ハリウッドは減はずだ！」**  
「ロードショー」4月号「山根祥敬」年令を問わずすべての人にスイセンできる。人間、どんな窮地に追いこまれても生きよう！生きろ！望みをすてるな！という人間と生命への限りない賛美、生きることへの強固な意志！かつてアメリカ映画はシンブルなまでにこういうヒューマニズムにつらぬかれていた。この映画が感動させるのはそこだ。私たちはもう一度、素直にそれを見直すべきで、これこそが映画の魔力であり、これこそが映画の魅力なのだ！